

2019年 第2回 日本救急医学会男女共同参画推進特別委員会 議事録

日時：2019年5月24日（金）

場所：日本救急医学会事務所

出席者：

畝本 恭子(委員長)、岡田 昌彦、木田 佳子、七戸 康夫、長谷 敦子、並木 みずほ、
本多 ゆみえ

欠席：

阿南 英明、小沢 昌子、木田 真紀(海外)、角 由佳(海外)、並木 淳、番匠谷 友紀、
矢口 有乃

議事

1) 前回議事録確認

2019年第1回委員会（2019年2月22日）の議事録を確認した。

2) 第47回日本救急医学会総会・学術集会に関する活動

① 委員会企画：ワークショップ「私なりのhappyな救急医の続け方」

a 演題・発表者につき検討した演題は公募・一部指定で募集

- 8演題の応募があり、指定演者については本日検討の予定だった。
- 前回、田中会長から伺ったところでは、展示室の一角などの予定で時間は90分前後のセッション。ワークショップなので、ディスカッションの時間は最低でも40分は欲しい。逆算すると、**5演題程度**が適当。
- ⇒テーマと、抄録から想定されるボリュームから判断して、**5演題を選定**した。（総会事務局に連絡）
- 演題の質が高いこと、時間的に厳しいことから指定演者はなしとする。（総会事務局に連絡）

b ディスカッション（ワーク）の課題につき検討した。

- 数年の間に、結婚・出産・育児（出産1回に限らず）し、専門医を取得した先生の体験⇒新専門医制度の中で、可能か？
- バリバリのキャリアの人が、結婚・出産すると子育てに専念してしまうケースがある。前と同じ働き方でないと戻れない（または戻りたくない）状況があるのでは。今までの働き方は無理という場合、このくらいだったら楽しく働き続けられるという場を作れるか？

- キャリア形成が先の人、同時進行の人の違い。
- パートナーの職種による違い。(夫がシフト制、定時帰宅など)
- 女性医師の3分の1の法則：結婚する人は3分の1（そのうち3分の1が離婚）とされるが、結婚しない3分の2の女性医師にも目を向けると…
- 独身女性頑張れ、男性医師は結婚しても関係なく頑張れではない。
 - 独身女性でもキャリアチェンジは‘あり’
 - 男性でも、結婚・育児について、家庭内の負担はある。
 - 学生時代からの教育・意識改革は必要
 - 学会としては、既婚・独身も公平にサポートする。

などが挙げられた。詳細は、次回委員会時に詰める。

② 女性医師ラウンジ

- a 名称は、従来通り‘男性も入れる’女性救急医師ラウンジ
- b ミニレクチャー：角 由佳先生(WHO)、伊藤 香先生（帝京大学）、矢島つかさ先生（坂総合病院）のお三方に声かけ。（角先生はご承諾いただいている。日程合わせ要）3時ころのティータイム ワークショップの時間によって検討。
- c お菓子等の品切れについて。さりげなく、制限をかける？アンケート記入した方だけ？おひとり様ひとつでお願いします掲示、など。
- d スライドの公募：評議員に募集をかける。メールで。早めに。
 「先生のご施設で、女性救急医ラウンジのキャリアパスをスライドにしてご提供いただける方がおられましたら、ぜひ、お願いいたします。」のような依頼文をお送りする。
 対象：女性救急医、（男性で、パートナーである女性医師を支えながらキャリアを積んだ方もよいかも：畝本追加）
 内容：キャリアパス、差支えない範囲のプライベートの部分、研修医・学生へのエンカレッジなど。数枚の施設アピールスライドを入れていただいても良いことにする。
 アピールポイント：研修医・学生も結構見に来ます。

3) 今後の活動について

- ① 前回（2月22日）検討したように、当特別委員会が活動を開始して今年で6年。最初の仕事だった女性救急医アンケートを再度行う。（母集団も増えているし、社会や制度の若干の変化もある。）
- ② 前回、項目がやや多かったので、少しコンパクトにしてはどうか。委員に前回の設問をお送りし、要・不要について検討していただく。近日中にメールで配信。

- ③ 女性救急医にメールで、サーベイモンキー等の URL を配布。